

通問 ①/4)

46歳の女性。2か月ほど前より朝方、両手の手がこわばることに気づいていた。両手の手指が腫れ、痛みのために袖口が収められないこともあったが、痛くない日もあったので様子を見ていた。2週間まえより膝の関節が腫れて立ったり座ったりするのが不自由になり、微熱、全身倦怠感を自覚するようになったので受診した。

この関節痛を診断する上で聞くべきことはどれか。

- ☒ A. 朝の手のこわばりほどのくらい持続するか。
- ☐ B. 歩き始めに膝が痛いのか。
- ☐ C. 関節痛が始まったのは日焼けのあとか。
- ☐ D. 唾液が少なく乾いた食品が食べにくいのか。
- ☐ E. 第1中足指関節が突然痛くなることはないか。

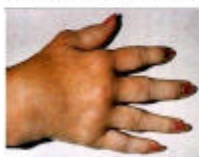
1

共用試験実施機構医科CBT問題作成分科会

通問 ②/4)

45歳の女性。主訴は関節痛。朝の手のこわばりは2時間以上は持続し、痛く、関節は日により異なる。身長154cm、体重48 kg、脈拍数 70/分、整、血圧138/88 mmHg。顔部、胸部、腹部に異常なし。手関節、中手基節関節(MCP)、近位指関節(PIP)に腫脹を認めた(写真)。

身体診察で認められる可能性の高いのはどれか。



- ☐ A. ヘルパトリオプ疹
- ☐ B. 蝶形紅斑
- ☐ C. レイノー現象
- ☐ D. 結膜炎
- ☒ E. リウマトイド結節

2

共用試験実施機構医科CBT問題作成分科会

連問 (3/4)

45歳の女性。朝の手のこわばりと移動性の関節痛を自覚していたが、2週間まえより膝の関節が腫れて立ったり座ったりするのが不自由になり、微熱、全身倦怠感を自覚するようになったので受診した。写真に示すよう、関節の所見を認め、さらに身体診察により肘窩にリウマトイド結節(皮下結節)が見つかった。しかし、ヘリオトロープ感、蝶形红斑、結膜炎はなく、冷水に手を入れてもレイノー現象は起こらなかった。したがってこの患者の関節痛の原因としては関節リウマチが考えられた。そこで治療を開始するにあたって、疾患活動性を評価したい。

評価に重要なものはどれか。

- A. 抗核抗体
- B. 赤血球沈降速度(赤沈)
- C. 血清補体値
- D. リウマトイド因子
- E. 白血球数

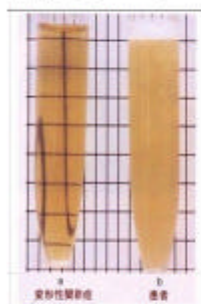
3

共用試験実施機構医科CBT問題作成分科会

連問 (4/4)

肘関節が腫脹しており、波動を触知したので関節穿刺をおこなった。採取された関節液の外観は(b)である。変形性関節症の患者の関節液(a)が透明であるのに対し、この患者の関節液は混濁している。

混濁の原因はどれか。



- A. 白血球
- B. フィブリノ
- C. 網膜
- D. 尿酸結晶
- E. ヒロリン酸結晶

4

共用試験実施機構医科CBT問題作成分科会